

LATITUDE 40N

2018年
8月17日

通巻66

●発行／(公社)秋田県診療放射線技師会 〒010-1106 秋田市太平山谷字中山谷247-32 TEL・FAX(018)838-3231

●発行責任者／豊嶋 英仁 ホームページ <http://www.aart.jp> AART E-mail: akita@aart.jp

巻頭言

2018 夏：次の世代につなぐために

(公社)秋田県診療放射線技師会 会長 豊嶋 英仁

この度の西日本を中心に全国各地で発生した記録的な豪雨被害により、お亡くなりになられた方々に心よりお悔やみを申し上げますとともに、被災された全ての方々に心よりお見舞いを申し上げます。

第78回定時社員総会にて、平成30・31年度の役員が選任され新体制が整いました。会長として2期目を拝命させていただくことになりました。引き続き、将来的な視点に立ち、当技師会の活性化や公益社団法人として抱えている課題の克服について取り組むつもりであります。また、日本診療放射線技師会との綿密な関係を保ち、診療放射線技師の地位向上に取り組むつもりであります。

当会の存続には、財政基盤の整備が重要な課題のひとつです。総会において会費規定の改定を承認していただき、公益目的事業会計と法人会計の按分を4対6とすることで余剰金の発生や正味財産の減少を抑える効果が期待できるようになりました。次は、研修センターの運用が課題になっています。現在の研修センターは1996年10月に秋田市太平山谷に先人達の英知を結集して建設¹⁾され、重要な拠点として22年が経ちました。2013年に公益社団法人化¹⁾した際に、研修センターは公益的事業の運用がなされていないために、維持管理費が法人会計の対象になってしまいました。今後は、外壁・屋根

塗装等の修繕に多額な費用が必要になることが予想されますが、その費用を全て法人会計に含めることは困難です。研修センターの公益的使用の例としては、研修会や被ばく相談を開催することがあげられます。しかし、収容人数制限や利便性に課題があるため容易ではありません。そこで、理事会内でワーキンググループを結成し、対策を検討していただくこととしました。

当会の活性化には、日頃から会員の皆様から大変なご協力をいただいております。次の世代につなぐためにはさらに、研修センターの運用課題について、検討していかなければなりません。今後とも会員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

資料1) (公社)秋田県診療放射線技師会 60周年記念誌



新理事 挨拶

理事就任のご挨拶

北秋田市民病院 鈴木 準

この度、県技師会の理事を務める事になりました北秋田市民病院の鈴木準と申します。理事は初めての経験で右も左もわからない状態ですが、豊嶋会長はじめ諸先輩理事の方々にご指導を賜りながら、自分にできる仕事をコツコツとやり遂げていきたいと考えております。一刻も早く理事として戦

力になれるよう努力し、会員の皆様のお役に立てるよう精進していきたいと思います。せっかく与えていただいた機会です。今まで以上に人とのつながりを大切に、自分自身の成長にも繋げていければと考えております。まだまだ未熟者の私ですが今後とも何卒宜しくお願い致します。

理事就任挨拶

湖東厚生病院 佐藤 進

この度、秋田県放射線技師会理事の任を承りましたJ A秋田厚生連湖東厚生病院の佐藤進と申します。

これまで県北中央地区の厚生連4病院で勤務、県技師会には二十数年在籍し様々なセミナー等に参加拝聴する機会がありました。しかし運営側に立っての活動は支部でのそれを含め皆無であります。

今回はこのようなお話を頂きましたが極々凡人の私が人様に誇れるような何かも

持っていることもありません。また周りの知識豊富な理事の方々には甚だ気後れすら感じる有様であります。

これから理事としての活動に切り諸先輩方の御指導を仰ぎながら会運営の一助となれるよう、また会員の皆様や理事の方々、そして会に迷惑のかからないよう与えられた任期を精一杯頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

新理事を任命されて

秋田大学医学部附属病院 篠原 俊 晴

昨年まで中央支部で実行委員を務め、本年度より理事を仰せつかりました。初めてのことで右も左もわからない状況であります。昨年の秋放技ニュースの巻頭言で豊嶋会長より、秋田県の組織率(放射線技師数に対する会員数の割合)は東北地域ではナンバーワンであり全国的に見てもトップクラスとのことでした。会員数が増えていること

はとても喜ばしいことであります。しかし同時に、会員の皆様に満足のいくような運営や企画をしなければならないという使命感や緊張感も感じております。まだ経験の浅い未熟者ではございますが、諸先輩方に多くのことを学びながらも精いっぱい任を全うしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

新理事 挨拶

理事就任にあたって

大館市立総合病院 羽 澤 憲 治

この度、定時社員総会において平成30・31年度の秋田県診療放射線技師会理事を務めさせて頂くことになりました大館市立総合病院の羽澤と申します。今までは会員として県技師会のもと様々な情報・講習・企画に数多く参加し自身をスキルアップさせて頂きました。

当たり前の様に活用させて頂いた場面が、すべて諸先輩理事の企画・運営に尽力した賜物であることを今回の理事就任で強く感じ、深い感謝と共に責任の重さを痛感しております。

始まって僅かですが総会・学術大会と理事会に出席して、役員の皆様の活動を拝見させて頂きましたが、右も左もわからない未

熟な自分に務まるのか不安を抱いているところで有ります。先輩理事にご指導ご協力を頂きながら少しでも貢献できるよう頑張り、秋田県技師会の発展のため活動できれば、と思っております。

我々の医療現場での立ち位置は難しいものが有りますが、取り巻く環境は日々変化しています。これに対応して次に進み繋げていくことは大変です。微力ではありますが会員皆様が活用する場を提供出来る様に頑張っ

て参りたいと思いますので、会員の皆様方のご理解とご協力を心からお願い申し上げて、簡単ではございますが挨拶に代えさせて頂きます。任期中、ご指導よろしくお願い致します。

理事就任挨拶

大曲厚生医療センター 小 林 林太郎

今年度より理事としてお世話になります大曲厚生医療センターの小林です。

理事役割で放射線安全管理委員長の役を仰せつかりました。

これまで一会員として放射線安全管理委員や医療画像情報委員として会の運営に携わって来ましたのでその経験を活かして参りたいと考えております。

さて、J-RIME医療被ばく研究情報ネットワークより最新の国内実態調査結果に基づく診断参考レベル「DRLs 2015」が公表されてから3年が経ちました。日常診療で用いている線量は果たして適切に管理運用されているのだろうか？と言う事が今まさに問われております。そのような中で日本診療放射線技師会が進めている被ばく低減施設認定の役割は大きなものとなってきています。線量管理の在り方を効率的に進める手段とし

てこれまでMPPSを用いて来た施設もあったかと思いますが、昨年MPPSがリタイアし、変わってDICOM-RDSRが管理の主体となりましたので機器更新のタイミングでSRを主にした線量管理システムの構築が必須となります。ここで存在感を発揮しなければなら

ないのが放射線管理士、放射線機器管理士、医用画像情報精度管理士ではないでしょうか？さらには、患者や被験者に対する説明を適切に技師が行うことも厚労省の医政発0430で求められていますので被ばく相談員の役割も大切になってきます。

放射線安全管理委員会では年に2回開催しているセミナーを通じて医療被ばくの適正化とその管理運用方法に関して情報提供を行うとともに被ばく低減施設認定の取得を推し進めて参りたいと考えております。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

功労賞の表彰

[表彰]

畠山保雄様 藤井真紀様



功労賞を受賞して

能代山本医師会病院 畠山保雄

この度は、公益社団法人秋田県診療放射線技師会定時社員総会にて功労賞を賜り誠にありがとうございます。この賞を頂くにあたり、会員の皆様、理事の皆様のたくさんのご協力とお力添えに深く感謝と御礼を申し上げます。また理事会への出席にご協力いただいた能代山本医師会病院のスタッフに感謝申し上げます。

平成18年より、県北支部の理事として参加させていただき、平成20年、28年には県理事にも参加させていただきました。豊嶋会長をはじめ理事の皆さんと知り会えたことは、とても有意義であったと感じております。就職した30年前は、技師3人の職場でありました。能代に就職したきっかけは、能代市保健センター開設による健診業務の開始に合わせたことでした。胃透視の経験がなかったので秋田県保健センターに1か月間研修に行かせていただき、春日さんをはじめスタッフの皆様には大変お世話になりました。また、撮影技術も十分に出来ていない私に施設長よりていねいに読影の仕方も教えていただき今でもとても役立っております。研修会に関しては県の学術大会、県北学術大会など年に数回のみの開催でしたが、現在は、秋田県でもほぼ毎週のようにどこかで研修会が開催されるようになりました。これは、医療技術の進歩を考えると当然のことなのかもしれません。最近では、若い会員が多く参加し発表しているのを見ると、とても誇らしくまた頼もしく

感じます。自分で疑問を持ったことをいろいろな文献で調べ実験し発表することにより、診療放射線技師としてひと回り大きく成長することは間違いありません。まずは院内勉強会から、そして支部学術大会へどんどん発表して行って下さい。始めることが大切です。社会の変化と共に医療に対する考え方も変化しています。特に震災による福島第一原子力発電所事故により被ばくへの関心が高くなり、よりきれいな画像からより適切な画像提供へ変化しています。また、DRLsの発表により私たちの業務もより一層「現在」に見合ったものにして行く必要があります。県北支部では、毎年の宿泊による学術大会の他、熊鍋ツアーや最近ではキャンプなども開催されています。多くの会員が参加して下さるからこそ行える行事だと思っております。支部研修会にしても40名以上は必ず出席していただいております。開催する側としては、とてもうれしくまたやりがいがあります。少人数の職場も多く、お互いの業務などの相談も気軽に出来るようなとても良い関係が築かれていると思います。

最後に、公益社団法人への移行作業の大変さをそばで見させていただき、今回の私の受賞は、理事をはじめ会員の皆様の日々の苦労と技師会の歴史を創り上げてきた諸先輩方の功績による賜物と思っております。今後も技師会の一員として参加していきますので、皆様のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

功労賞の表彰



功労賞を受賞して

秋田県総合保健事業団 藤井 真紀

この度は功労賞をいただき誠にありがとうございます。このような賞を私がいただけるなんて思いもよりませんでした。理事をはじめ会員の皆さま、職場の皆さまの御協力と御理解があつてのことと深く感謝いたしております。

理事に推薦されたときはちょうど職場が変わり2年目を迎えたときでした。まだ下の子が4歳になったばかりで家庭と仕事の両立だけで精一杯と思っていましたので、自分にこのような役目がはたして務まるものか不安でいっぱいだったことを覚えております。

理事になってからは主に救理による活動に携わってきました。毎年恒例の母の日キャンペーンやピンクリボンキャンペーンなど、救理委員や女性会員の皆さまにずいぶんと助けられながらやってきました。またJARTによる女性サミットに参加し、そこから派生した東北女性WG『みちのくこまち』にも参加させてもらい、たくさんの女性会員の方々と交流することも大変刺激になり、良い経験をさせていただいたと思っております。

もうひとつ心に残ることは、秋田県の乳がん部会の委員として参加させていただいたことです。これは秋田県の乳がん検診の実施要綱や乳がん検診のあり方について意見交換する会です。当初はそのような話し合いの場に私が参加するなんて恐れ多いという感じでした。そんなときにMMG研修会にてインシデン

トについて会員同士での話し合いがあり、そのひとつとしてペースメーカー装着、V-Pシャント施行者だと気づかずに撮影した、というものでありました。検診現場で働く私自身何度か経験しておりましたが、他施設でもそういったことが起きていることを改めて知りました。そこで調べてみたところ、他県では実施要綱に対象外としてしっかりと記載されているものがあるのに対し、秋田県では対象者の欄にはそういった記載が全くされておませんでした。乳がん検診をするにあたり、実施する市町村、受けられる県民の皆さまにこれではいくら私たちが現場で説明しても何も変わらないと感じ、部会にて対象外について記載して下さるようお願いしました。ほんの僅かな事ですが、実際の現場に関わる診療放射線技師でなければ分かりえないことだと感じ、また私たちの役割を示すこととして重要なことだと思いました。

これからは会員のひとりとして、微力ではありますが技師会の発展にご協力できればと思っております。今後とも皆様の御指導御鞭撻を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

奨励賞の表彰

[表彰]

湯瀬直樹様



奨励賞を受賞して

北秋田市民病院 湯瀬直樹

この度は、公益社団法人秋田県診療放射線技師会奨励賞を賜りました。このような栄誉ある賞を頂き、恐縮するとともに大変光栄に存じます。受賞にあたりご推薦いただきました公益社団法人秋田県診療放射線技師会会長、副会長ならびに理事の皆様方に心よりお礼申し上げます。

受賞に至ったきっかけは、公益社団法人秋田県診療放射線技師会の事業でもある「放射線安全管理委員会」に平成26年度から微力ながら関わらせて頂くことができたからだと思っています。

医療における放射線防護や管理は、診療放射線技師にとって避けては通れない責務だと知りながらも、今まで積極的に携わってこなかった私に、委員会に参加させていただくことで自覚を持たせてくださいました。

平成26・27年には、佐藤義春委員長の元、平成28・29年からは、加羽馨委員長の元で素晴らしい委員の皆様にも恵まれ、年2回の「放射線安全管理セミナー」を企画し開催して参りま

した。企画する以上は、私自身も内容を理解する必要があると感じ、委員の皆様からご指導を頂くことでより理解を深めることができました。委員の皆様との出会いには、とても感謝しております。有難うございます。

今回、このような賞を頂いたことで、私自身、今後どのように秋田県民の医療や公益社団法人秋田県診療放射線技師会に貢献することができるかが重要になると思っています。

奨励賞とは、今後への期待や激励などの意味を込めて授与される賞と伺っております。

その点で今後やらなければならないことは、放射線安全管理委員会の目的の一つでもある「被ばく低減施設認定」取得の推進と、今年度発足しました「秋田消化管撮影研究会」の活動を推し進めることだと考えます。

最後になりましたが、今日までご指導ご鞭撻を頂いた諸先輩方ならびに公益社団法人秋田県診療放射線技師会の皆様、そしてかづの厚生病院・北秋田市民病院の皆様にも深く感謝申し上げます。



第78回定時社員総会・特別講演に参加して

市立田沢湖病院 齊藤 龍 晴

平成30年5月19日(土)「にぎわい交流館 A U」3F多目的ホールにて第78回定時社員総会が行われた。

総会に先立ち、表彰式が行われた。功労賞を受賞された畠山保雄会員と藤井真紀会員は、私とは理事会の同期にも等しい。お二人は、支部長や救理委員長として、当会で中心的に事業展開して下さった。奨励賞を授与された湯瀬直樹会員は、実験や研究を通じた価値ある発表などが評価されたもので、更に活躍が期待される。今後早い時期に理事になっていただき、手腕を発揮していただきたいと思います。

総会では、「会費規定改定の承認を求める件」に審議時間が多く配分された。執行部から、同規定の改定のための経緯が丁寧に説明されたが、今後も当技師会を継続するためにも改定することの必要性を会員が十分に理解することができると内容であった。

この後に、当会を今後2年間、運営する20名の理事と2名の監事が候補者として挙げられ、



承認された。今期で理事を退任する自分にとっては特別な思いであった。

私が理事として運営に携わらせていただいたのは平成22年からの8年間であった。特に、レントゲン祭(後の医療放射線画像展)は公衆を対象にした大規模な公益事業であった。アルヴェの開催会場で行ったパネル展示や講演のこともありではなく、開催のため催し物を考え、パネルを準備するなど、研修センターで行ったこと



もたくさんの思い出となっている。理事として力不足ではあったが、執行部や会員の皆様に支えられ、何とかやってこられたと思っている。心から感謝申し上げたい。

特別講演では、秋田県立脳血管研究センター 放射線医学研究部の研究員である、松原佳亮先生から「Deep learningで何が変わるのか？—放射線診療への応用と展望」と題して講演を承った。我々、診療放射線技師にとってAIやビックデータは真新しい言葉ではない。ただ、人工知能・大量の情報とは知っていても多くを知っている訳ではない。AIは医療分野で、CT・MRI・PET等で多くの発表があり、応用されているという。色々な分野に興味を持ってきたつもりであったが、自分の知識不足を痛感した。

先生の研究は専ら、画像から病変を抽出、描写するものであった。Deep learningは指摘した特徴を機械に抽出させていく、従来の機械学習(ML)を更に発展させたものであるという。機械学習では異常な特徴を人間が指定、入力する行程がある。これに対してDeep learning(深層学習)は、AI自らが特徴の設定や組み立てを行って進化するもので、機械学習に対して更に精度を高めることができるようになるという。そのための多くの情報を取り入れ進化させる必要がある。このたび韓国で対局が報道され人間に勝った 囲碁AI「AlphaGo」もこれであるという。今後は、Deep learningで、現在の病状から今後の変化、予後までをAIで推定できるようになるという。

では、何でもAIが判断するような時代が来てしまうのか。人間は色々な分野で不必要になってしまうのか。とても、不安になった。だがAIが進化のため、多くの情報を集積しているうちに、人間の目・感覚で捉える特徴とAIの捉える作業に違いが起こる。またノイズまでも認識してしまい、誤った判断をしてしまうという。最終的には、人間が直接確認しなければならないという。AIは医療で診療のアシスタントはするが、全てをAIまかせにすることはできず、必ず医師なりが、確認しないと誤りが起きると



のことであった。ここに来て、私はようやくホッとした。講演中、ハリウッド映画のように、このままでは、AIに人類が飲み込まれてしまうと感じていたからである。興味を引くすばらしい講演のため、時間が短く感じられた。

先日、「82年前、沖縄の記憶」として戦前のモノクロ写真をAIでよみがえらせた画像が公表された。機械学習で行ったものなのか、Deep learningも使ったものかは判らないが、AIが身近であることも感じた。今回は、最新のAIについて、めったにお聞きすることのできないお話であった。多忙中にもかかわらず、講演してくださった、松原先生には、心から感謝を申し上げますと共に、今後、益々の発展とご活躍を願っている。

今回の総会及び特別講演も大変充実している内容であった。会員の皆様と共に今後も研鑽に励んでいきたいと思っている。



平成30年度

学術大会・学術講演会報告

市立秋田総合病院 田村博文

平成30年5月19日(土)、20日(日)の2日間、秋田市にぎわい交流館AUの多目的ホールにおいて、平成30年度(公社)秋田県診療放射線技師会学術大会並びに学術講演会が開催されました。

今年の学術大会は、19日(土)の特別講演後に12演題、翌日に18演題、2日間にわたって計30演題と、ここ数年では最多の演題数となりました。前日からの大雨と河川の氾濫で、会員の参加状況が危ぶまれましたが、2日間とも予想を上回る多くの会員が集まりました。

内容も血管撮影、線量評価、MRI、乳腺撮影、CT、放射線治療、一般撮影、核医学、と多岐にわたり、特に、MRI検査に関する演題は7演題と最多でした。どの演題に

おいても、活発な討論があり、とても熱い学術大会となりました。学術大会終了後には第一三共株式会社と共催のランチョンセミナーがあり、造影剤「オムニパーク」に関する情報提供が行われました。

学術講演会では、社会医療法人高橋会高井病院放射線科技師長の土井司先生より「医療安全を科学する ～根拠ある安全啓発を目指して～」と題してご講演頂きました。土井先生は、医療安全に自身のご趣味である登山の経験を交えて、非常にわかりやすくご講演下さいました。皆さん、医療安全の重要性を再確認できたことと思います。

学術大会・学術講演会と、あっという間ででしたが、大変充実した時間を共有できた2日間であったと思います。



平成29年度

マネージメント研修会開催報告

能代山本医師会病院 畠山 保雄

平成30年2月3日(土)、秋田県立脳血管研究センター講堂にて平成29年度マネージメント研修会が開催された。会員38名、賛助会員7名の参加があった。

初めに最新の医療政策動向について、GEヘルスジャパン株式会社株有田葉子氏が講演された。診療報酬改定における画像診断関連の詳細な内容および地域医療構想・病院経営効率化支援などについて言及された。画像診断分野の方向性については、3TMRIの評価や心臓MRI・小児鎮静化MRIなど実態に合わせた改定要望などが取り上げられた。また、画像診断管理加算4の創設なども紹介された。

続いて「放射線部門のリスクマネージメント」をテーマに5名の会員による発表が行われた。まず、加藤 守氏(秋田県立脳血管研究センター)による「IVRにおける医療従事者・患者被ばく管理*最近のICRPの動向を踏まえて*」の講演が行われた。ICRP Publication85の考え方が現在の被ばく線量管理の基本になっていること、Publication120での被ばく用語の修正についての解説、被ばく線量の管理などを説明し、皮膚障害への対応の大切さを訴えた。

次に郡山 邦夫技師長(市立横手病院)が「CT検査急変時におけるシミュレーション訓練の経験」をテーマに講演した。動画も交えながら反省点などを話され、訓練の大切さや必要性を感じた。2度目の訓練ということで、手際よく行動されている様子が見えた。

続いて黒澤 慎哉氏(秋田労災病院)が「労災病院グループにおけるMRIの安全管理について」講演した。吸着事故、フロンガス抑制法、貼付剤、刺青患者に対する同意書について話された。吸着事故の具体的な事例をあげ、フルメンテでも相当の金額がかか

ることを紹介した。また、貼付剤フェントス・フェンタニルテープなどは麻薬取締法により廃棄してはいけないことなどが紹介された。安全確認の大切さが再認識された。

4番目として伊藤 浩技師長(能代厚生医療センター)が「放射線治療の安全管理」について講演した。治療の流れから線量校正、線量管理の具体的な方法、独自の工夫などを紹介した。大館市立総合病院との連携などが紹介され、マニュアルの整備と他施設との横のつながりによる安全を担保し合う仕組み作りが必要とした。

最後に加羽 馨技師長(市立角館総合病院)が「病院新築における安全対策」について講演を行った。新築計画から開院までの流れ、開院での許可申請と保健所への手続き、機器搬入スケジュール、装置紹介などを話された。新たにHIS・RIS・PACSなどの導入があり、業務が軌道に乗るまでも大変なご苦労があったと思われる。

医療現場における安全管理の重要性は増すばかりです。放射線診療においては、通常必要とされる一般安全管理に加え、被ばく管理・造影剤使用時の安全管理・MRIにおける高磁場対策・放射線治療における線量管理などが必要になります。今日の講演会を期に安全性の再確認をして頂ければと思います。



母の日キャンペーン

母の日キャンペーンに思うこと

秋田県総合保健事業団 藤井 真紀

今年も例年通り、母の日キャンペーンが開催されました。集合時間が近づくと徐々に参加者がぼぼろーどに集まり、慣れた感じでパンフレットとティッシュをかかえて、それぞれ配布しはじめます。配る時間はあっという間に終わり、最後は全員で記念撮影をしたりして無事にキャンペーンは終了です。救理がこのキャンペーンに参加させてもらってからすでに15年以上になるといいます。(AARTホームページの救理記事より。)主催されているあけぼの会は、マンモグラフィによる乳がん検診がまだ始まっていなかった時代から長い間、このキャンペーンを続けてきたことを思うと、本当に頭の下がる思いです。ご存じの方も多いですが、会長の佐藤清

子さんもお高齢になり、足腰が弱くなってきているとお話されながらも、駅前でのキャンペーンだけでなく県北や県南で行われるキャンペーンにも必ずご自分で行っています。(今回の県南でのキャンペーンでは大雨の影響で電車が動かず断念したようでしたが…。)

マンモグラフィは広く知られる検査となりましたが、まだまだ受診されたことがないという方も多く、世のお母さんたちは(私も含め)自分のことを後回しにしがちです。母の日キャンペーンのイベントが検診に向かうきっかけのひとつとして、少しでも役立ってくれればと切に願います。



母の日キャンペーン 参加者

秋田赤十字病院	関 谷 千 春
JCHO秋田病院	平 塚 美由樹
秋田県総合保健事業団	藤 井 真 紀

市立角館総合病院	工 藤 瑠利子
雄勝中央病院	高 橋 麻冴子

放射線安全管理セミナーに参加して

秋田厚生医療センター 柳 原 達 宏

平成30年5月19日に秋田市にぎわい交流館で開催された放射線安全管理セミナーに参加させていただきました。今回のテーマは「秋田県における放射線安全管理の取り組み事例」ということで、多くの講師の方々から患者さんへの被ばく低減について、他施設での工夫などを学ばせていただきました。

講義の中には今話題になっている医療被ばく低減施設認定についてもありました。認定について具体的にどのようなことをすればよいのか疑問が多かったのですが、講師で

あります法花堂会員のわかりやすい説明のおかげでそれも解けました。また、妊娠されている方の腹部防護の必要性など講義を通じて普段の日常業務での被ばく問題について、考え直す良い機会になったと思います。

二時間半という短い時間でしたが、講師を務めていただいた方々のおかげで、とても有意義なセミナーになったと思います。今回の内容をこれからの業務に活かしていけるように努めていきたいです。



乳房撮影技術研修会に参加して

由利組合総合病院 田中知香

6月2日(土)に秋田大学医学部医学系研究棟にて平成30年乳房撮影技術研修会が開催されました。毎年恒例の研修会とあって、女性技師を中心にたくさんの会員が参加されました。

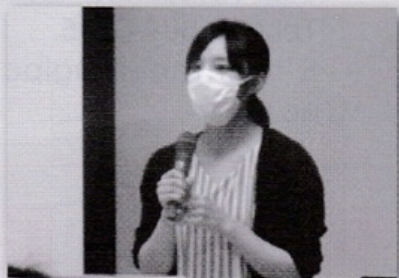
はじめに、市立横手病院の村上千恵会員より新しく導入されたPHILIPS社製マンモグラフィ撮影装置について紹介がありました。X線光子の数を直接デジタル信号として取り出すフォトカウント方式やグリッドを使わずに散乱線を除去するマルチスリット方式など独自の技術が多く採用された装置のようでした。撮影時に管球が独特な動きをする点や支持台がカーブしている点などとても興味をもって聞かせていただきました。

次に、平鹿総合病院看護師の武石優子先生より「乳がん看護認定看護師の役割」と題して講演がありました。認定看護師の役割は患者さんが治療について納得し安心して治療を進めていけるようにサポートすることです。治療が進むにつれて副作用による脱毛や術後のリンパ浮腫といった身体的変化に対する不安、治療にかかる費用など

金銭面の不安など様々な悩みが出てきます。家族のこと、仕事のこと、将来のことなど個人的な悩みも抱えます。どんなときも一方的に考えを押し付けたりせず、患者さんの考えや思いを聞くことを大事にし、その人にあったサポートを行うように気をつけているそうです。その他に最近の乳がんについての動向として遺伝性腫瘍症候群や乳房再建についても詳しくお話いただきました。

最後に、慶應義塾大学病院の根本道子先生より「乳腺画像 conference」と題して講演がありました。マンモグラフィや乳腺エコーの画像からどのような診断・手術が行われるのかいくつか症例を紹介していただきました。技師の経験から撮影するときのポイントや、現在は医師として診断するとき注目するポイントをわかりやすく教えていただきました。撮影した画像が術式や切除範囲まで与える影響は大きく、技師の責任は重大だと改めて感じました。

今回の貴重なお話を参考に、これからも日々の業務に気を引き締めて取り組んでいきたいと思います。



会 員 情 報

(平成30年7月10日現在)

【会員数】 359名(正会員357名、名誉会員2名)賛助会員:23社
 県北支部:94名、中央支部:177名、県南支部:88名

※会員情報(住所・氏名・勤務先等)の変更は、日本診療放射線技師会のホームページにて手続きをお願い致します。

お知らせ

JART 30・50年勤続表彰のお知らせとお詫び

○勤続表彰のお知らせ

JART表彰規程において会員の永年(30年、50年)勤続を表彰するとされており、例年11月ごろにその推薦を行っております。

表彰者推薦の要件は

- (ア)診療放射線技師籍登録後、放射線技師業務に30年以上(あるいは50年以上)従事した会員
- (イ)本年度までに会費未納の無い会員
- (ウ)JART入会后、連続15年以上経過した会員(再入会は新規入会とみなす)
- (エ)50年勤続表彰者はすでに30年勤続表彰を受賞した会員

となっております。

今年度30年勤続表彰の対象となる会員は、技師籍登録1988年(昭和63年)の会員です。例年、対象となる会員には、はがきや電話にてご案内しております。表彰を希望される会員はJART HP トップページ/「各種様式」/「表彰推薦に必要な書類」より「様式5」をダウンロードし、履歴をご記入の上、以下までご郵送願います。

なお、ご提出後AARTにて推薦された会員は、来秋に開催されます全国学術大会にて表彰されることとなります。なお、当日出席できない方には

賞状と記念品が郵送されます。

また、過去に対象者(上記太字以前に技師籍を取得されている会員)でありながら表彰を希望されなかった方でも要件を満たす方は推薦の対象となりますので、ご一報いただけますようお願いいたします。

○お詫び

AART会誌第55号 p26-27「過去の表彰者」2006年JART勤続30年表彰 二木 賢(ふたぎさとし)会員のお名前が記載漏れとなっております。下記訂正の上、ご迷惑おかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

国・県 関連				JART (受賞年度)	
総会	西暦	叙 勲	厚労大臣表彰	功労賞	勤続50年表彰
66回	2006				勤続30年表彰
					小 松 義 明 二 木 賢

お問い合わせ：表彰委員長 谷口 直人

〒010-8543

秋田市広面字蓮沼44-2

秋田大学附属病院 中央放射線部

Tel:018-884-6305

E-mail:tani-rt@gipc.akita-u.ac.jp

ご案内

今年のピンクリボンキャンペーンの開催日が決定しました。

● 平成30年10月21日 日曜日

● イオン大曲店(大仙市和合字坪立177)

女性会員はもちろん男性会員もふるってご参加ください!開催時間、内容等詳細につきましては、ピンクリボンキャンペーン in akita 2018 ホームページをご覧ください。

編 集 後 記

■今年度も、皆様からのご協力により、情報誌 L A T I T U D E 40 N 通巻66を発行することが出来ました。広報委員会は、今期もメンバー交代があり、新理事が3名加わり、総勢6名となりました。これから2年間よろしくお願いいたします。また、引き続き原稿を募集中ですので、今後とも協力のほど、よろしくお願いいたします。(田村)